

実施報告 「女子力とまちづくりフォーラム」

生涯学習研究所は、1月21日（土）、聖徳大学生涯学習社会貢献センター（10号館）12階を会場に、社会で活躍している女性にスポットを当てた「女子力とまちづくりフォーラム」を開催し、多くの方々にご参加いただきました。

フォーラムは、分科会、基調提言・講演、シンポジウムの三部構成で実施しました。

午前は、「青少年育成に必要な女子力」と「女子力を地域で発揮する秘策」の2つの分科会に、聖徳大学人文学部生涯教育文化学科および聖徳大学人文学部児童学科生涯学習指導者コース（現聖徳大学人文学部生涯教育文化学科）の卒業生が登壇しました。学校や社会教育施設で活躍する人、自治体や一般企業で活躍する人が、それぞれ職場でどのような業務に就き、どのように女子力を発揮しているかなど、具体的な事例を挙げて報告し、参加者を交えて意見交換しました。



午後は、福留所長の基調提言からスタートしました。

福留所長は、「女性がまちで活躍しており、活性化に大きな役割を果たしている。若者の地域離れが懸念されるようになって久しいが、東日本大震災を契機にボランティアに目覚めた若者も多く、今後、若者と地域のマッチングに成功すれば、まちは輝きを取り戻すはずだ。特に、若い女性が元気の源になる可能性を持っている」と話し、いま、まちづくりにおいて「女子力」が重要な役割を担っていると、本フォーラムの意義を解説しました。

引き続き、NHK大河ドラマの『江』や『篤姫』の脚本を手がけた田淵久美子氏による、「女子力で輝いて生きる」と題した基調講演が行われました。

田淵氏は、「自分は何が好きか、何をすれば喜びを感じるかを知らないで生きるとはしたくない。まずは、自分を見つめること、自分を知ること。自らの望みや役割を認識し、覚悟を持って取り組むことが女子力を向上させる。女子力を意識して行動すれば、日常が充実した日々が変わっていくはず」と自らの経験を交えながら語り、「仕事も生活も、後悔しないように最善を尽くす。それは、女性だけではなく、男性にも必要な考え方ではないでしょうか」と会場に問いかけました。

フォーラムを締めくくるシンポジウム「女子力でまちは変わる」では、文部科学省社会教育課長の塩見みづ枝氏、東京都立川市大山自治会長の佐藤良子氏、株式会社富士通研究所の中村亜紀氏がパネリストとして登壇し、それぞれの立場でどのように「まちづくり」に関わり、貢献してきたか、そのきっかけや、現在の取り組み、活動の喜びなどを、女性ならではの視点で語っていただきました。



「女性とまちづくり」という着眼点でのフォーラムは、新鮮な試みとして、参加者の皆さまからご好評をいただきました。

課題別研究会 2011「ネットワーク」 1月開催報告

生涯学習研究所は、「ネットワーク」を年間テーマとして、毎月第3金曜日の夕方に課題別研究会を実施しております。

1月は、聖徳大学児童学部児童学科の木村敬子教授が、「女性が輝くネットワーク」をテーマにお話いたしました。

今回は、母親にスポットを当てて、自身が手がけた母親の育児環境調査データをもとに、最近の子育て事情の課題をお話いたしました。

イギリスの教育社会学者フィリップ・ブラウンが唱えた「ペアレントクラシー」は、家庭の経済力と親の願望が重なった部分の選択が、子どもの社会的成功につながるという考え方です。日本のように教育費の公費負担分が低い国はその傾向が強く、社会的不平等に陥りやすいと考えられます。すでに兆候があるとも言われており、その対策が必要だと問題提起し、参加者と意見を交換いたしました。



次回予告

日時：2月17日（金） 18:00～20:00

場所：聖徳大学生涯学習社会貢献センター（10号館）5階

テーマ：「イキイキと生きるには」

東日本大震災や世界的な経済危機、環境問題など、今日の私たちは、これまでになく「人が人らしく生きること」の意味を問いかけてられています。

この不安定な状況下であっても、イキイキと生きることを実践する人もいます。これからの時代をさらにイキイキと生きていくためのヒントや考え方を、実例をもとに一緒に学びます。

メインスピーカー：天野勤（聖徳大学児童学部児童学科教授）

参加費：無料

問い合わせ先：聖徳大学生涯学習研究所（電話：047-365-5691）

